

# CCA モーセ大学 第6期「本当の幸せとは？ 新約聖書の人物から」

## 第2回【ペテロ】

日 時 2025年7月16日（水）午後2時  
会 場 芦屋市民センター  
講 師 平松洋一（芦屋岩園教会牧師）

### 1. はじめに

- ・私たちは誰もが「幸せ」を求め生きているが、富、名声、健康、安定した生活、良い人間関係といったものは壊れる可能性がある。
- ・「本当の幸せ」とは壊れることのない幸せであり、キリストの弟子であったペテロの生涯や言動からそのヒントを探る。

### 2. ペテロの名前

- ・聖書翻訳によって「ペテロ」（例：口語訳、新改訳）、「ペトロ」（例：新共同訳、聖書協会共同訳）と表記に違いがある。原文のギリシャ語では「Πέτρος」（ペトロス）
- ・彼の本名はシモン（ヘブライ語シメオンのギリシャ語表記）
- ・イエスはシモンをケファ（アラム語「岩」＝ギリシャ語ペテロ）と呼んだ（ヨハネ1:42）
- ・ペテロは教会の礎としてキリストに選ばれ、天の国の鍵を授けられた（マタイ16:18-19）

### 3. ペテロが見出した「本当の幸せ」

- (1) 出会う — 幸せの原点は「呼びかけられること」
  - ・漁師シモンがイエスに呼びかけられて弟子となる（マルコ1:29-30a、マルコ1:16-20）
  - ・神に見出され、呼びかけられることが幸せの出発点
- (2) 共に歩む — 幸せとは「理解され、成長を促されること」
  - ・イエスとともに生活し、奇跡・教えを体験
  - ・失敗を通じて信仰が育てられる（例：マタイ14:26-30、マタイ16:21-23）
- (3) 挫折と回復 — 幸せとは「赦され、立ち上がること」
  - ・イエスを三度否認した深い失敗（マルコ14:27-31、マルコ14:70-72）
  - ・復活のイエスが三度の問いと再任命（ヨハネ21:15-17）
  - ・赦しと信頼により、再出発の力を得る
- (4) 使命に生きる — 幸せとは「与える人生に変えられること」
  - ・聖霊降臨後、大胆な説教で3000人が洗礼を受けた（使徒言行録2:40-41）
  - ・自己中心から他者への奉仕へと変えられた人生
  - ・最後は殉教によって証した生涯
- (5) 希望に生きる — 幸せとは「神の喜ばれる生き方」
  - ・苦難の中でも朽ちない希望と信仰（ペトロの手紙一 1:3-4）
  - ・神への信頼と謙遜（ペトロの手紙一 5:6-7）
  - ・他者との愛と支え合いの中にある神の喜び

### 4. おわりに

- ・ペテロは完璧でなかったが、イエスの愛と赦しにより変えられた。
- ・私たちも弱さを抱えながら、神に信頼し、愛の呼びかけに応えるところから始まる。
- ・幸せの答えは一つではない。人生の歩みの中で聖書と共に問い続けていく。

## 引用聖書（新共同訳）

### 2. ペテロの名前

そして、シモンをイエスのところに連れて行った。イエスは彼を見つめて、「あなたはヨハネの子シモンであるが、ケファ—『岩』という意味—と呼ぶことにする」と言われた。（ヨハネ1:42）  
↳新改訳では「（言い換えれば、ペテロ）」

わたしも言うておく。あなたはペトロ。わたしはこの岩の上にわたしの教会を建てる。陰府の力もこれに対抗できない。わたしはあなたに天の国の鍵を授ける。あなたが地上でつなぐことは、天上でもつながれる。あなたが地上で解くことは、天上でも解かれる。（マタイ16:18-19）

### 3. ペテロが見出した「本当の幸せ」

#### (1) 出会い — 幸せの原点は「呼びかけられること」

すぐに、一行は会堂を出て、シモンとアンデレの家に行った。ヤコブとヨハネも一緒であった。シモンのしゅうとめが熱を出して寝ていたので…（マルコ1:29-30a）

イエスは、ガリラヤ湖のほとりを歩いておられたとき、シモンとシモンの兄弟アンデレが湖で網を打っているのを御覧になった。彼らは漁師だった。イエスは、「わたしについて来なさい。人間をとる漁師にしよう」と言われた。二人はすぐに網を捨てて従った。また、少し進んで、ゼベダイの子ヤコブとその兄弟ヨハネが、舟の中で網の手入れをしているのを御覧になると、すぐに彼らをお呼びになった。この二人も父ゼベダイを雇い人たちと一緒に舟に残して、イエスの後について行った。（マルコ1:16-20）

#### (2) 共に歩む — 幸せとは「理解され、成長を促されること」

弟子たちは、イエスが湖上を歩いておられるのを見て、「幽霊だ」と言っておびえ、恐怖のあまり叫び声をあげた。イエスはすぐ彼らに話しかけられた。「安心しなさい。わたしだ。恐れることはない。」すると、ペトロが答えた。「主よ、あなたでしたら、わたしに命令して、水の上を歩いてそちらに行かせてください。」イエスが「来なさい」と言われたので、ペトロは舟から降りて水の上を歩き、イエスの方へ進んだ。しかし、強い風に気がついて怖くなり、沈みかけたので、「主よ、助けてください」と叫んだ。（マタイ14:26-30）

このときから、イエスは、御自分が必ずエルサレムに行って、長老、祭司長、律法学者たちから多くの苦しみを受けて殺され、三日目に復活することになっている、と弟子たちに打ち明け始められた。すると、ペトロはイエスをわきへお連れして、いさめ始めた。「主よ、とんでもないことです。そんなことがあってはなりません。」イエスは振り向いてペトロに言われた。「サタン、引き下がれ。あなたはわたしの邪魔をする者。神のことを思わず、人間のことを思っている。」（マタイ16:21-23）

### (3) 挫折と回復 ― 幸せとは「赦され、立ち上がること」

イエスは弟子たちに言われた。「あなたがたは皆わたしにつまずく…中略…」するとペトロが、「たとえ、みんながつまずいても、わたしはつまずきません」と言った。イエスは言われた。「はっきり言うておくが、あなたは、今日、今夜、鶏が二度鳴く前に、三度わたしのことを知らないと言うだろう。」ペトロは力を込めて言い張った。「たとえ、御一緒に死なねばならなくても、あなたのことを知らないなどとは決して申しません。」（マルコ14:27-31）

しばらくして、今度は、居合わせた人々がペトロに言った。「確かに、お前はあの連中の仲間だ。ガリラヤの者だから。」すると、ペトロは呪いの言葉さえ口にしながら、「あなたがたの言っているそんな人は知らない」と誓い始めた。するとすぐ、鶏が再び鳴いた。ペトロは、「鶏が二度鳴く前に、あなたは三度わたしを知らないと言うだろう」とイエスが言われた言葉を思い出して、いきなり泣きだした。（マルコ14:70-72）

イエスはシモン・ペトロに、「ヨハネの子シモン、この人たち以上にわたしを愛しているか」と言われた。ペトロが、「はい、主よ、わたしがあなたを愛していることは、あなたがご存じです」と言うと、イエスは、「わたしの小羊を飼いなさい」と言われた。…中略…三度目にイエスは言われた。「ヨハネの子シモン、わたしを愛しているか。」…中略…イエスは言われた。「わたしの羊を飼いなさい。（ヨハネ21:15-17）

### (4) 使命に生きる ― 幸せとは「与える人生に変えられること」

ペトロは、このほかにもいろいろ話をして、力強く証しをし、「邪悪なこの時代から救われなさい」と勧めていた。ペトロの言葉を受け入れた人々は洗礼を受け、その日に三千人ほどが仲間に加わった。（使徒言行録2:40-41）

### (5) 希望に生きる ― 幸せとは「神の喜ばれる生き方」

神は豊かな憐れみにより、わたしたちを新たに生まれさせ、死者の中からのイエス・キリストの復活によって、生き生きとした希望を与え、また、あなたがたのために天に蓄えられている、朽ちず、汚れず、しぼまない財産を受け継ぐ者としてくださいました。（ペトロの手紙一 1:3-4）

だから、神の力強い御手の下で自分を低くしなさい。そうすれば、かの時には高めていただけます。思い煩いは、何もかも神にお任せしなさい。神が、あなたがたのことを心にかけていてくださるからです。（ペトロの手紙一 5:6-7）